2006 年度

科目名	対象学科・学年	担当者
マスコミ論	文学部日文１回生　教育教福１回生 文学部英米１回生 文学部教福１回生 文学部文財１回生 文学部コミ１回生	小川　丈治

授業テーマ

映像の見方・描き方〔前期〕／　映像作品の可能性〔後期〕

授業の概要と目標

「マスコミ論」は新聞、雑誌、放送、映画などのメディア（Media=媒体）を通じて、大量の情報を不特定多数の人々に伝える行為(Mass Communication=マスコミュニケーション、略してマスコミ）を論じる学問です。この情報を表現する手段は、以前は言語が主でしたが、最近は映像に比重がかかっています。学校では言語（日本語、外国語）の勉強はしてきましたが、映像の見方や描き方の勉強はなおざりです。これではいけません。講義では映像に焦点を当て、映像教材を多用して説明します。

評価方法

採点は学年末のリポート内容７０点、出席日数３０点で計算します。

テキスト	著者	出版社
指定しません。毎回プリントを配付します。		

参考書	著者	出版社
講義のたびに紹介します。		

授業スケジュール・内容

〔前期〕　序・講師の自画像(VIDEO)
（講師は元 TV ディレクター）

＜映像の歴史＞
第１講　現代の代表的マスコミ
「新聞と放送」概観

第２講　映像の時代の意味

第３講　歴史－絵画から写真へ

第４講　歴史－動く映像の発明

第５講　歴史－初期の映画

＜映像表現の特徴と技法＞
第６講　映像認知の仕組み

第７講　脳の中の映像と言語

第８講　映像と言語の比較

第９講　映像表現法①（撮影）
第 10 講　映像表現法②（編集）

＜映像表現の害と利点＞
第 11 講　ナチスと映画

第 12 講　嘘つき映像の歴史

第 13 講　米国の政治とＴＶ映像

第 14 講　映像との付き合い方

〔後期〕＜映像作品の制作現場＞
第１講　アメリカの映画制作

第２講　コマーシャルの制作現場

＜虚構としての映画の可能性＞
第３講　アニメの歴史概観

第４講　アニメ作品を観る①

第５講　「もののけ姫」

第６講　アニメの制作現場
第７講

第８講　アニメ作品を観る②
第９講　「火垂るの墓」

第 10 講　アニメとドラマの表現
特性を比較る
第 11 講　ＣＧ表現の可能性①
第 12 講　「ジュラシックパーク」

第 13 講　ＣＧ表現の可能性②
第 14 講　「ハリーポッター」

第 15 講　講義のまとめ